

北部地区

人口	男	2,945人	女	3,105人	計	6,050人	世帯数	2,531世帯
----	---	--------	---	--------	---	--------	-----	---------

※人口、世帯数は令和4年1月1日時点

《事業概要【分野】と主な支出内容》

① 健康で生き生き暮らす地域づくり事業 【福祉】

地区内公園5か所に高齢者向け健康器具を設置し、健康増進とコミュニティの向上を図る。

健康器具の設置

ストレッチフープ2基、背伸ばしチェアー3基、スプリングバー1基、
足上げストレッチ1基、健康マージャンセット 10自治会に2組ずつ配備

② 安全で安心する地域づくり事業 【防犯】

(1) 千手山公園内に防犯カメラ等を設置し、利用者の安全確保と犯罪抑止力を高める。

防犯カメラ2台、防犯カメラ作動中看板3基

(2) 防災備品等を設置し、防災対策の強化を図る。

防災備品等の設置

屋型テント6張、会議用テーブル10台、会議用テーブル台車1台、会議用イス30脚、
会議用イス台車2台、デジタル印刷機1台、専用架台1台、ノートパソコン1台、
防災機材倉庫1棟

《収支決算》

【収入（円）】

費目	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
地域の夢補助金	—	—	—	4,073,740	2,530,520	6,604,260
その他補助金	—	—	—	0	0	0
自己資金	—	—	—	0	120	120
計	—	—	—	4,073,740	2,530,640	6,604,380

【支出（円）】

事業No	H29	H30	H31/R1	R2	R3	計
事業①	—	—	—	2,830,300	0	2,830,300
事業②(1)	—	—	—	1,243,440	0	1,243,440
事業②(2)	—	—	—	—	2,530,640	2,530,640
計	—	—	—	4,073,740	2,530,640	6,604,380

《事業への取り組みを振り返って》

北部地区自治会協議会では、次の課題を解決するため、地域の夢実現事業を導入し実施しました。

1 地域の現状・課題

① 現状

北部地区は、まちなか3地区（ほか中央地区・東部地区）のひとつで、10自治会で北部地区自治会協議会を組織しています。地区の面積は1.89km²で、市街地への北玄関として、国道121号線・352号線（例幣使街道通り）沿いにあり、黒川の西側には、情報センター、図書館、川上澄生美術館、文化活動交流館等からなる文化ゾーンが形成されています。さらに、西には木造大規模校舎の北小学校、市民文化センター、市民の憩いの場所として千手山公園が整備されています。

近年では、ショッピングモールや路地裏カフェなどができ、老若男女問わず楽しめる街となっています。

② 課題

北部地区の課題については、人口減少と少子高齢化です。人口の減少は、地域の経済活動の減速や、地域の伝統的な行事やイベントの消滅など、地域の活力を低下させる要因となって、地域コミュニティの衰退につながります。地域コミュニティが衰退すると、災害等の互助機能や地域の防犯力が弱まり、住民の安全で安心な生活が脅かされてきます。少子高齢化では、子供が少なくなると直接人口減少につながり、地域に活気がなくなってきます。また、高齢者が増えると要支援や要介護者が増加します。さらに、一人暮らしの高齢者が増えると、引きこもりがちになり孤独死などの社会問題が起これ、地域の支えあいによる仕組みづくりが急務となりました。

防災面では、H27年の関東・東北豪雨と令和元年の台風19号による大規模災害の発生により、地区内に甚大な被害が発生し、避難誘導のあり方や、災害時の地域防災対策を拡充していく必要が出てきました。防犯面においては、千手山公園内に不審者が現れた情報があり、近隣の北小学校関係者より不安の声があがったことから、防犯対策にも力を入れていく必要性が生じました。

そのような状況の中、北部地区では、地区の課題を住民の皆さんがどのように思っているのか全世帯を対象としたアンケート調査を実施いたしました。その結果、338世帯から回答があり、課題の多くは、少子高齢化対策、一人暮らし高齢者問題、防災・防犯対策等が上げられました。

北部地区自治会協議会では、これらの課題を解決するため、協議会において協議・検討を重ねた結果、地域の夢実現事業を導入し、次の2つの事業のなかで、取り組んで実施することにいたしました。

2 地区の具体的な取り組み

① 健康で生き生き暮らす地域づくり事業

ア 地域住民の憩いの場、語らいの場として親しまれている地区内公園に、高齢者を含め誰もが気軽に利用できる「健康器具」を設置し、健康増進に努めました。特に引きこもりがちと言われる高齢者にも、公園で過ごす時間を増やしてもらうことで、多世代にわたる交流を促進し、北部地区の人的環境を魅力的なものに育ててきました。公園は、無人の時間が長いとが集まりにくいもので、人影が増えると相乗効果で活気が出てきます。健康増進と併せて地域コミュニティの更なる向上を実現できるよう、今後も積極的に活用していきます。

イ 各自治公民館に「マージャンセット」を配備して、高齢者を対象とした健康マージャン教室を開催しました。マージャンは、脳の活動を活性化させ、指先を使い適度な会話を楽しみながらゲームをするので、認知症予防につながります。これにより、高齢者の割合が多い地区だからこそ、健康で生き生き過ごせる長寿社会の形成が図られます。また、初心者でも気軽に参加できる仕組みを工夫して、定期的な開催と北部地区全体の交流大会を行うことで、地域コミュニティの推進を図りました。健康マージャンは、「お金を賭けない」、「アルコールを飲まない」、「タバコを吸わない」などの厳格なルールがあり、誰もが健康的に楽しみながらゲームを行うことで、中高年の生きがいづくりの手段として全国的に広がりを見せています。

さらに、同じルールで体力に関係なく取り組めることから、課題の一つである世代を超えた交流も促進できるものと考えます。

～「健康器具」設置状況～



② 安全で安心する地域づくり事業

北部地区住民の憩いの場である千手山公園に、「防犯カメラ」と「防犯カメラ作動中」を知らせる看板を設置しました。千手山公園は、桜やツツジの名所として市民に親しまれている公園です。また、おとぎ電車や観覧車などがある遊園地として子供達や家族連れ、若いカップルに人気のあるスポットで、市内外から多くの来園者がいます。その公園内に、防犯カメラと看板を設置することにより、犯罪抑止効果を高めるとともに、地域の防犯意識の高揚につなげ、日常的に犯罪に対して高い意識で備える地域づくりを目指しています。

次に、防災面では、平成27年の関東・東北豪雨と令和元年の台風19号により大規模災害が発生し、北部地区では甚大な被害を受けました。平成29年に、全世帯を対象としたアンケート調査では、防災対策が必要との回答が多数ありました。

このような状況を踏まえ、北部地区自治会協議会では、各種団体との協議を重ねた結果、防災備品等の配備が必要との結論に至り、災害時の復旧対策を強化していく観点からも、北小学校に「屋型テント」、「会議用テーブル・イス」、「パソコン」、「防災機材倉庫等」を整備いたしました。

今後も、災害時に強い安全で安心する地域づくりを推進していきたいと思えます。

～各設置・配備状況～



「防犯カメラ」



「カメラ作動中」看板



「防犯機材倉庫」



「屋型テント」